

祝 竜丘地区二十歳の集い



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,603人
男子 3,198人
女子 3,405人
世帯数 2,602戸
(5年2月末現在)

令和四年度竜丘地区の「二十歳の集い」が
一月八日に竜丘公民館で開催される



これまでは「成人式」といわれていた式典ですが、昨年四月の改正民法の施行で成人年齢が引き下げられたことから、飯田市では今年度から名称が「二十歳の集い」に変更されました。対象者のうち四十六名が華やかな振袖やスーツ姿で参加し、旧友や恩師との再会を喜び、また、大人としての自覚を新たにしました。

第一部は鈴岡太鼓の力強い演奏で始まりました。続いて、田添公民館長・下平竜丘地域自治会長・市瀬市議会議員から「竜丘にはすぐれた文化があるから、誇りをもって継承していつてほしい」「選挙権があるのだから、ぜひ選挙に行つて投票してほしい。政治が変われば生活が変わる」等、二十歳の若者に託す、未来に希望を込めたお祝いの言葉がありました。

二十歳の代表の塚平しほさんからは、「今まで家族や地域の方々にお世話になってこの日を迎えることができた。現在大学で経済学を学んでいるので、将来は地元の金融機関へ就職できるように頑張りたい」と感謝とともに力強い決意の言葉がありました。

第二部は、思い出の写真のスライドショーや、中学校時代の恩師からのビデオレターを見てから、集合写真を撮影しました。事前申し込みしてあった保護者の方の撮影タイムもあり、我が子の晴れ姿にスマホを向けて何回も撮影する姿に喜びがあふれていました。

第三部は、折り詰めと飲み物とともに、蕎麦の會・野楽路さんのお蕎麦がふるまわれました。基本は黙食で、話をするときには必ずマスクをするという制限はありましたが、旧交を温め

ることができました。最後には恒例の長野原煙火会による花火を見上げ、成人としての決意を新たにしました。



実行委員の皆さん

頂いた方々、今まで僕をお世話してくださった方々、本当にありがとうございます。また皆様とご縁がある事を願っています。

桐林 吉川 咲弥さん

当日は式が滞りなく進むの少し不安になる反面、皆の晴れ姿や笑顔を実際に見られる喜びが混ざった一日でした。

久しぶりに会った旧友の二十歳らしい姿の中に当時の面影を残す表情を見た時は、とても不思議な気分でした。また実行委員として二十歳の集いに関わった中で、今までの思い出を振り返る瞬間が何度もありました。たくさんの方の関わり、経験などすべてが今の自分に繋がっているのだと、今になりに少しわかったような気がしました。式典を運営する一部に関わらせていただけてよかったです。

桐林 北澤 優輝さん

私は二十歳の集いの実行委員として参加させていただきました。最初は熊谷さんと一緒にいき、誰かいいいなと思いつながら参加したのですが、誰もいなくてとても不安でやめようと思つていました。ですが、話し合いを進めていく中で段々とメンバーが増えいき、とても良い雰囲気や内容が作られていきました。交流していく中で松尾、下久堅、先生方など懐かしく思い出のある人も出てきてとても嬉しく思いました。二十歳の集いでは司会をやらせてもらって全然上手に話せなかったけど、全てを通して色々な人と関わりを持つことができて嬉しかったです。二十歳の集いの場を作ってくれた方々には感謝しかありません。これからが大人への第一歩だと思うので、はめを外さないように失敗を恐れず頑張っていきたいと思つていました。

桐林 熊谷 翔流さん

式典の日は、天気がよく、そこはかとなく暖かかったと思います。恩師の先生方からのメッセージも聞けて、お蕎麦もごちそうになり、最後にきれいな花火も見られて一生の思い出になりました。ここまで楽しめたのも、地区の役員さんや実行委員のみんなや参加してくれた皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。

桐林 中島 未歩さん

私が二十歳の集いを通して一番強く感じたことは、今年無事に開催できて良かったということです。姉の時からずっと楽しみにしてたので、

大平 雄斗さん

この度二十歳の集い実行委員をやらせて頂きました。大平です。まだ二十歳の僕らは節目を迎えど、序章に過ぎず、この先幾度となく困難という波にさらされることとなります。

大平 雄斗さん

今回のことも良き経験とし荒波にのまねず、乗りこなす勢いで今後も励んでいきたい。立派なサーファーのように。

桐林 中島 未歩さん

ほんとうに申し上げたいのは二十歳の集いに協力して

桐林 中島 未歩さん

本当に嬉しかったです。ただ一番の楽しみだった。おいしいんぼの皆さんのお料理が食べられなかったのが残念でしたが、野楽路の皆さんの美味しいお蕎麦を食べられたこと、久しぶりに懐かしい友達に会えたこと、なにより嬉しかったことです。鈴岡太鼓の皆さんの演奏も成人代表挨拶も最後の花火も、とても素晴らしいかったです。

桐林 中島 未歩さん



「おじさんはね、誰だかわかる？画家だけデザイナーの仕事もしているんだよ。だからまだ、半画家なんだ。」原田泰治さんが、故郷の後輩たち伊賀良小学校六年一組の子どもたちに語り掛けます。一九九八年に放送された、NHKの番組「課外授業 ようこそ先輩」の一シーンです。子どもたちの質問に対する飾らないありのままの姿。自身の足の補装具を見せながら話す表情に、本当の強さ、たくましさを感じました。一人一人に声をかけ、さりげなく褒めるところ、優しく親しい口調に人柄と魅力が表われていました。

素朴画で知られる原田さんの画は、幼少期の経験から得た、高いところから俯瞰する鳥の目、地面の近いところを観察する虫の目の、双方が揃った画風です。空があり、野山に木々、田んぼに畑、川、畦道、草花、虫、そして農作業など人々の営みを、四季折々、緻密に表現した作品の数々には、日本人の心、ふるさとを想う気持ちをいつまでも忘れないでというメッセージを感じます。大人になると忘れてしまっている子どもの頃の感覚。画を通してよみがえる故郷の景色が、親、兄弟、友人、先生など、多くの人に支えられて今の自分があることへの感謝に繋がります。

今回の二十歳の集いへの感謝の言葉も、主催者側への励みになります。地区での行事では、原田泰治さんのような素敵な「おじさん、おばさん」であり続けたい。子どもたちの成長を願い、地域の力を大いに発揮していきたい。正月に県外から帰ってきた息子の、「やっぱ山に囲まれていると落ち着くわ」という呟きを思い出して、さらに強く思いました。

はあるかぶりの活動再開!!

初日の出 鈴岡公園より

第二十七回竜丘ニューイヤーコンサートが、一月十五日に大ホールで行なわれました。

三年ぶりの開催となったコンサート。運営経験がある文化委員は二名だけということで手探りの運営となり、準備等も大変だったと思われましたが、十一の個人・団体の参加で盛大に開催されました。

「平成八年から行われている行事。今回は少し少ないが十一組の参加者。二十七回連続の参加者もあります。音楽の力で今年一年元気に過ごしましょう」という公民館長の挨拶で始まりました。

第一部はベートーベン等のピアノ演奏、息の合った



撮影の度に「駄科だにー」

世界で注目される

公民館活動

飯田国際交流と学びの会 加藤 守孝

JICA事業・参加型地域社会開発(PLSD)研修の飯田研修が三年ぶりに実施され一月三十一日、ウガンダ、インドネシア、シエラレオネ、エチオピアから四人の研修員が竜丘を訪れました。今回は冬の時期となり自国との寒暖差三十度以上の過酷な条件の中、借り物の毛布やジャンパーを重ね着しながらも熱心に地域住民活動について講義を受けました。飯田市の公民館と地域の公民館、また分館との違いなど事例をもとに詳しく説明を受け、最後には地域活動が発展した鷲流峡

今回の研修員の皆さんは公民館の活動に非常に興味を持たれ、地域住民が自ら自治活動に携わることに関心を示し、たくさん質問を挙げていました。自国では政府の力が強く竜丘と同じ活動を展開するのは難しいかもしれないが、ここで学んだことを少しでも実現できるように働きかけていきたいと意欲的に話しました。



当日の資料

かわいい演奏から感動する演奏まで ニューイヤーコンサート



竜丘・時又保育園と一緒に歌いました

鈴岡太鼓子供連は十六人の小学生が大人に負けない迫力のある演奏をホールに響き渡らせました。飯田川村カネトの物語、田線の測量をした川村カネトの物語を合唱で。大人の学校のハーモニカクラブの発表は女性四名で三曲を聞

リコーダー四重奏の響き、来年度小学校に入学する元氣いっばいの園児の歌声を聞くことができました。

駄科のピアノ教室に通う小学生による大正琴の音で県大会へ進んだグループを含むレベルの高い演奏を披露してくれました。



竜丘ニューイヤーコンサート

かしてくれました。リズムをとりながら聴く人もあり、「明日があるさ」では演奏に合わせて観客が歌を口ずさむ場面もありました。竜丘コーラスは発足から四十八年目だそうで、十人の声がきれいに響きました。最後は野口雨情が詩を書いた「伊那の龍丘」を会場の皆さんと一緒に歌ってコンサートは終了しました。

公民館委員研修

二月二十六日、諏訪方面へ公民館委員研修に行きました。今回の目的は「諏訪市原田泰治美術館」の見学です。

諏訪へ向かう車中ではNHKで放映された原田泰治が母校である伊賀良小学校六年一組に行った課外授業の様子とその後の交流をまとめた番組をみていただきました。原田泰治は、幼少の頃開拓農民として一家で下伊那郡伊賀良村(現在の飯田市伊賀良地区)へ引越した十年間を伊賀良村で過ごします。家族や自然に囲まれた



族の話を聞いたり、いいところをほめて好きなように描くという話をしてのりを見て、竜丘の自由画と通じるものがあるなあという感想も聞かれました。

美術館で実際にみた作品はどれもとても細かく丁寧に描かれていて感嘆の声が上がりました。番組で感じた事を思い出しながら観た作品はどれも心に響くものでした。

他にも諏訪大社上社への参拝、ワカサギ釣りを楽しみました。ワカサギ釣りの釣果は残念な結果でしたが、船の上で色々な話をする事が出来てとても有意義な時間になりました。

新型コロナウイルスの影響で、三年ぶりの研修となりました。

竜丘小学校受賞

鷲流峡復活プロジェクトと共に

これまでの鷲流峡復活プロジェクトへの協力活動が評価され、令和三年度全日本学校関係緑化コンクールで「国土緑化推進機構会長賞」を受賞することになりました。

七年前の一月、あるテレビ番組を見た時に、伐採した竹を有効活用している環境保護団体が竜丘にあることを知り、当時の市瀬自治振興センター所長さんにプロジェクトとの間をつないでいただいていたことが活動参加のきっかけでした。

以降六年間、六年生が総合的な学習の時間で、竹林の伐採や伐採した竹の有効活用などを行ってきました。年々活動の内容も進化し、遊びやメンマづくりのための幼



上川路 八幡神社

冬の景色

長野原 文化祭

時又 おん火

駄科 文化祭

桐林 八幡社



(文・竜丘小学校 和田 英幸先生)



原田 泰治さん